教育コラム「愛のかけはし」：２５６号

令和５年３月
江差町教育委員会
学校教育課

『節目（年輪）となる３月』

３月は卒業・別れの月です。１日（水）の公立高校の卒業式を始めとし、１５日（水）の江差中学校・江差北中学校、１７日（金）の江差小学校・江差北小学校、２０日（月）の南が丘小学校と続きます。文部科学省、北海道教育委員会の通知に伴い、４年ぶりに児童・生徒、教職員、保護者、来賓が一堂に会する卒業式を行えることになりました。中学校の生徒は、大勢の人に見守られての儀式を初めて経験することになります。

私は卒業式が好きです。目には見えない送る心と送られる心が、体育館の中いっぱいに溢れ、会場の誰の心をも素直にし、無垢な感動を与えてくれるからです。卒業式は、雑念と煩悩にまみれた私の心を１年に１度浄化させてくれるとても貴重な場でした。

忘れられない卒業式の思い出は数ありますが、その中のひとつに『卒業式ジャック』と名付けた場面がありました。（以下、当時の学級通信から抜粋します）

> １・２年生が体育館を飾ってくれた。頭上には宙に舞ういくつもの鶴。ステージには全校で登ったＫ山の裾から未来へ向かって羽ばたくたくさんの鶴。そのうちの４０羽には卒業生それぞれの思いが書かれていた。その中での卒業証書の授与。みんなは堂々としていて大変立派だった。たくさんの方からお祝いの言葉をいただき、校長先生に励まされた。在校生送辞にＵくんが３年間を振り返って答えた。お別れの歌を歌い、晴れの卒業式を笑顔で祝えたと思った時、事件は始まった。
>
> Ｃさんが歩いてくる。『あとは退場だけなのに、おなかでも痛くなったのか。大丈夫か。』と、本気で思った。声をかける寸前にＣは目の前を通り過ぎて行った。音楽のＹ先生がきょとんとしている。養護教諭のＳ先生の目がいつもよりさらに大きい。３年生が全員立ち上がった時、Ｃ の手がピアノを弾き始めた。『卒業式ジャック』。顔の筋肉が痙攣したようだ。しょうがなくハンカチと友達になった。私の『卒業式を笑顔で祝う計画』は、無残にも打ち砕かれた。会場にこぼれたたくさんの人のたくさんの涙は、会場にあった大きな心の結晶だった。
>
> 卒業式をジャックするなんて聞いたこともない。本当だったら怒られるべきことだ。しかし、今回はマニュアル通りでなく、指示に従うだけでない、みんなの勇気を誉めたい。いつでもそれが当てはまるわけではないが、その勇気は持ち続けてほしいと思う。２年生は来年、記念合唱として最初から式に取り入れようとするだろう。それだけの感動と心が今回の卒業式にあった。今回の卒業式をつくった全ての人たちにあらためて言いたい。「素晴らしい卒業式をありがとう！」

この出来事には、賛否両論あることと思います。ただ、当時３年生の担任だった私の思いは、上記の通りでした。

町内各小中学校において、令和４年度の卒業式が感動的に行われることと思います。

さて、『【生活リズムチェックシート】による町内小中学生の生活や学習状況の調査（冬）』の状況がまとまりましたのでお知らせします。

小学生の朝食摂取や早寝早起きの状況は、夏と同様おおむね良好です。インターネットやゲームの時間が夏に比べ、２０分近く増加しています。ネットの利用に関する約束ごとづくりを早急に進めることが望まれます。家庭学習は、夏と同様おおむねなされている状況です。

中学生の朝食摂取状況は夏と同様おおむね良好ですが、全く朝食を食べない生徒がいますので、健康面から習慣づけが望まれます。就寝・起床時間については、全体的に夏よりも若干遅くなっているのは、寒い季節の影響でしょうか。休日になると就寝・起床時間が遅くなる傾向は夏と同様です。睡眠時間が成長や疲労回復に関係することへの理解が必要です。夏に比べ、ネットやゲームの時間増加が目立つ生徒がいます。家庭での早急な約束ごとづくりが望まれます。家庭学習時間は十分とは言えない状況がみられます。

『頑張りたい』・『頑張る』と目標を立てているのに全く家庭学習をやれていない児童・生徒もいます。目標・目的の設定や家庭学習実践の具体的な方法の獲得など、改善に向けた早急な対応が必要です。

４月の進学・進級に向けて、生活・学習状況を整えさせてあげたいものです。『やってみせ　言って聞かせて　させてみせ　ほめてやらねば　人は動かじ』　やり方を知り、チャレンジし、成功を褒められて達成感を覚え、自分の必要性を感じ、自分に必要な努力を理解した時、子どもたちは大きく力を伸ばします。家庭や学校での指導、地域の教育力を生かして、子どもたちの心に火をつけてあげたいものです。

江差町の子どもたちの挨拶の良さや礼儀の正しさは、これまでにも紹介してきたところです。２月の鍋祭りの際に会場で出会った中学生は、「この場所で食べさせてもらっていいですか？」と、テーブルの先客に了解を得て食べ始め、食べ終わった後には「ありがとうございました！」と、お礼を言って立ち去りました。気持ち良い行動に感心させられました。

１０月に、コンサドーレ札幌の元主将で現リレーションズチーム・キャプテンである河合竜二氏の指導者講習会、小中学生へのサッカー教室がありました。翌１１月には、コンサドーレ札幌北海道キャラバンで来町した現主将の宮澤裕樹選手と福森晃斗選手による、小中学生への基礎技術指導の機会がありました。一流の指導者・選手である 3 氏の礼儀正しい言動からは、驕ることない確立された人間性が感じられました。こういった姿を子どもたちは模範とするのだと思います。町の大人に限らず、広く尊敬し真似できる大人と接する機会は、子どもたちにとってとても貴重な体験となると感じました。

３月が、子どもたちの心にくっきりとした年輪を刻み込む、節目の月となることを祈念するところです。